

<b>ドイツ文化論</b> ( German Culture )		<b>1年・後期・2単位・選択必修</b> <b>3専攻共通・担当 田島 昭洋</b>
	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 A-1, C-2	〔JABEE 基準〕  (a), (f)
<p>〔講義の目的〕</p> <p>シューベルトの音楽芸術に焦点を当て、都市文化の一端を探る。文化の醸成にはそれと切り離せられない時代背景・社会背景があり、社会を見れば芸術様式を知ることができ、芸術を探れば社会のありようを推しはかれる。このように思いながら都市と音楽を考えてみると、その最も深い対を結んだのがウィーンとシューベルトである。シューベルトは市民的「音楽愛好家」として出発しながらも次第に職業的「作曲家」として社会に認められていくのだが、その過程は前代未聞の現象であった。背景に、宮廷・貴族と接しなかった代わりに、多くの市民の友人に囲まれ、友情のなかからすぐれた楽曲を生み出す市民生活があった。都市と都市民の姿がシューベルト芸術に現れていると言える。シューベルトの芸術をたどり、都市を反映した文化がいかなるものかを考えたい。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>講義形式を基本とするが、都市や文化の紹介にあたっては、担当者による現地体験談・歌唱実演や都市映像や楽聖映画や音楽ソフトを通して視覚的・感覚的なイメージを取り入れ、理解を深める。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>受講にのぞむ真摯な態度や積極的な姿勢が重要である。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 19世紀前四半世紀における社会的転換の把握</li> <li>・ 「ウィーン古典派」とシューベルトの共通性と差異性の確認</li> <li>・ 交響曲と舞台音楽が公演に結びつかなかった都市の音楽事情の認識</li> <li>・ 親しみやすさと演奏しがたさの融合するシューベルト歌曲の理解</li> <li>・ 楽曲に現れた「果てしなさ」における近代都市性・都会的普遍性の確認</li> </ul>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>提出物（50%）、授業での取り組み・積極性〔発言の有無、回数〕（50%）</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>教科書は使用しない。適宜、拙論のコピーを配布したり、参考文献を紹介したりする。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p>		
<p>〔関連科目〕</p>		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	地理学習、都市の文化的特色の紹介	
第2週	18世紀後半～19世紀初頭におけるウィーンの社会と音楽事情	18世紀後半における帝国の近代化策と諸改革 世紀転換期における社会的変動と社会的転換 シューベルトの出自	
第3週	シューベルトの出發	皇室神学校コンヴィクトにおける音楽教育 「ウィーン古典派」(ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン)の音楽、ツムシュテークの歌曲、ゲーテの詩との出会い	
第4週	シューベルト歌曲の基本的構造『野ばら』	抒情詩の成立と文学的考察と音楽分析 「民謡」とシューベルト芸術の根本的相違	
第5週	『魔王』	ゲーテのバラードとシューベルトの作曲の成立・解釈・分析 音楽による詩の凌駕の考察	
第6週	初期交響曲と舞台音楽	1810年代の初期交響曲と舞台音楽について 作曲目的と芸術性	
第7週	友情に培われた音楽	市民サロンと音楽会付親睦会「シューベルティアーズ」 自立への努力	
第8週	音楽愛好家から職業作曲家への転機	公的社会への道と宮廷歌劇場歌手フォーゲル 舞台音楽『双子の兄弟』『魔法の竖琴』上演の実現 『魔王』公演と出版の実現	
第9週	舞台音楽における「失敗」について	さらなる舞台音楽上演を阻んだ劇場事情とウィーン体制	
第10週	1818～1823年の「危機の時代」	自伝的寓話『ぼくの夢』に託された社会との不調和 飛躍を目指しての苦闘と異世界的『未完成』の「完成」	
第11週	『美しき水車小屋の娘』と都市市民の喪失感	ミュラーの連作詩集とさすらい職人の世界 都市化がもたらす「失われたアルカディア」への憧憬	
第12週	『美しき水車小屋の娘』における『さすらい』	「果てしなさ」の音楽的構造 “さすらい” “さすらい”の普遍的近代都市性	
第13週	大交響曲への道	『大ハ長調』の果てしなさと螺旋的進行が意味するもの	
第14週	『冬の旅』 第1曲『おやすみ』	ミュラー詩集との再会と「戦慄の歌曲集」の単色世界 『冬の旅』と『おやすみ』の異様性と暗示性 「よそもの」の音楽的表現と『おやすみ』の永続的回転性	
第15週	『冬の旅』マイクロコスモスとマクロコスモス	終盤(第17～24曲)に集中する第1曲への回帰的性格 『菩提樹』の「諦念」と終曲『ライヤー回し』の「発見」 第1曲の永続的回転性と全24曲の永続的回転性	
期末試験			

\* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.  
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)